

図書館の動き：学習支援連携委員会の動き

2009 年度 of 取組みと課題

2009年3月23日に開催された学習支援連携委員会(第1回)を経て、5月13日に開催された学習支援連携委員会(第2回)では、2009年度の図書館の取組みについて報告があった。この中では、オープン教育センター科目として設置される「早稲田大学 基礎講義」の第8回目を図書館が担当すること、新入生向けのオリエンテーションの実施、政治経済学部総合基礎演習aおよび文学学術院の基礎演習等への授業支援など、既に実施・予定されている図書館の取組みについて報告がなされた。

また、オープン教育科目の設置を中心とする今後の課題について、作業部会での検討内容の報告があった。結論として、次回委員会までにオープン教育センターへの科目設置を前提とする学習支援の具体的な内容について各学術院・関係箇所との間で議論を深めたいとの提案を図書館より行い、了承された。

学術院・図書館連携による 学習支援体制確立に向けて

7月15日に開催された学習支援連携委員会(第3回)では、この間実施した各学術院教務主任との懇談結果について報告があった。

また、各キャンパスにおける連携による学習支援体制の確立について、下記の3点からなる提案を行い、協議の結果、出された意見をふまえ、次回委員会(第4回)に修正案を提案することとなった。

- ・各キャンパスとの連携による学習支援体制の確立のため、キャンパス作業部会(仮称)を設置し、アカデミック・リエゾン(学術院)(仮称)を選出すること
- ・各学術院(学生読書室を含む)への協力として、学術院全体の取組みへの協力と授業・ゼミ等への個別支援からなる事業を実施すること
- ・全学横断的な図書館設置科目について引き続き検討を行うこと

なお、夏季一斉休業期間中に中央図書館2階の一部をグループ学習の場として改修する件について報告があった。カードボックスと26台のインターネット端末が設置されている部分の改修を行い、移動可能なテーブルを設置することで、様々な人数で学習できるスペースを創出するものである。

9月30日に開催された学習支援連携委員会(第4回)では、各学術院・図書館連携による学習支援体制確立に向けて、委員会でのこれまでの審議経過と、各学術院でのヒアリングを

もとに、1.「学習支援」に対する図書館の取組み、2.学習支援の進展に伴う支援のあり方、3.教職による相互補完の意義、4.学習支援を進める体制の4つの柱からなる提案がなされた。その概要は次のとおり。

1. 「学習支援」に対する図書館の取組み

大学生として身につけるべき各種リテラシーを修得させることは全学的課題であることから、図書館も学術院との協力により一定の役割を担ってきた。新入生向けの基礎演習科目に図書館リテラシーを取り入れる事例もできている。また、個別ゼミや授業でのリテラシー支援にも図書館は随時協力している。これらの取組みは、担当教員および学生からおおむね高評価を得ており、新規プログラムへの関与も含め、更なる体制の強化が望まれる。また、そのことから、学術院との緊密な連携をはかるため、図書館は若手研究者による「アカデミック・リエゾン」(図書館リエゾンに対するカウンターパート)、「キャンパス作業部会」の設置を提案した。

2. 支援のあり方—学習の進展に伴って—

新入生にはまず「図書館」を認知させ、蔵書やサービスの概要などを示し、役に立つという実感を醸成することが基本である。その上で、各種サービスや情報検索の説明、WINEやデータベースの実習などに進んでいくことが望ましい。

2年次以降については、専門分野やカリキュラム構成の相違などから、リテラシー支援は学術院(さらには学科や専修)ごとの個別的なニーズへの更なる適合が求められる。

卒論研究や大学院学生に対する支援の余地もある。実際、大学院からの具体的な要望にも、極力応じている。この段階では、専門分野への目配りが一層重要になる。一方、他大学からの進学者・留学生などへのケアも別途考慮の必要がある。大学院にも引き続き、実施機会の拡大をはかる。

3. 教職による相互補完の意義

図書館では、こうした学習支援ニーズ等の新たな期待を受け止めて、「アカデミック・リエゾン制度」を設けた。この制度は、各キャンパスおよび中央図書館を核として、教育研究現場に依拠した質の高いサービスを行おうとするものである。その実効性を高めるため、図書館リエゾンは各学術院の研究者と緊密に連携することが望まれる。特に、研究者リエゾンと図書館リエゾンの知識と経験が補完的に作用して各種プログラム(講習会等やWebでの発信など)の質を高めることが期待される。

4. 学習支援を進める体制

上記の目的を達成するため、各学術院より研究者を「アカデミック・リエゾン」として選出願うことが検討されてきた。また図書館リエゾンとの協働の場として、「作業部会」の設置も考慮の対象となっている。設置の目的としては以下のことが考えられる。

- (1) 学生が身につけるべきリテラシーと基礎演習の科目内容の検討、講習やWebにおける主題知識の提供(学術院→図書館)、

データベース等の知識習得と情報共有 (図書館→学院)

(2) 上記1～3で述べたような支援を効果的に行えるための
相談、情報交換、プログラム具体化の検討・実施など

しかし、学院の状況はそれぞれ異なり、画一的な体制を作ることには困難がある。したがって、リエゾンの選出や部会の設置を第一の目的とはせず、学院それぞれのニーズについて本委員会として精査を続け、具体的支援を展開しながら、今後に向けて最適な方法と体制をさらに検討していくことが妥当と考えられる。

以上をふまえて審議を行った結果、当面の出発点としては各学院の要望に対し、できるだけ質の高いプログラムを提供していくことが目標となった。

2010年度に向けて

2月4日に開催された学習支援連携委員会(第5回)では、2009年度の活動について報告があった。の中には、授業支援にとどまらず、政治経済学院の若手研究者向けのセミナーなども含まれている。

また、2010年度に向けた取り組みについて報告があり、各学院において表明された図書館に期待される役割、実施に向けての方策などについても意見交換を行った。

学習支援連携委員会設置要綱

1.目的

『「Waseda Next 125」理事会の基本的な考え方』が示す全学基盤教育の確立に向けて、図書館に期待される新たな役割の具現化や各学院において展開される教育研究活動と図書館サービスのより密接な連携を実現するため、図書館に学習支援連携委員会を設置する。

2.任務

本委員会は、主に学部学生に対する学習支援の一層の充実・強化をめざし、全学共通の枠組みの構築や各学院ごとの取り組み等について検討をおこなうことを任務とする。

3.構成

- (1) 各学院の教務担当教務主任、副主任または各学院院长が推薦した者 各1人
- (2) 図書館長、図書館副館長および図書館事務部長
- (3) 教務部長または教務部副部長のうちから選任された者 1人
- (4) メディアネットワークセンター所長、副所長または教務主任のうちから選任された者 1人
- (5) オープン教育センター所長または教務主任のうちから選任された者 1人
- (6) 図書館長が指名する教職員 若干人

なお、座長は図書館長とし、幹事は図書館事務部長とする。

4.委員の任期

役職上の委員を除く委員の任期は、図書館長の任期に準ずる。

5.作業部会の設置

本委員会は、学習支援に係る諸施策を企画・実施するため、必要に応じて、作業部会を本委員会のもとに設置できる。

6.事務

事務は図書館総務課長がおこなう。

以上

(2009年2月6日制定)

学習支援連携委員会委員名簿

| 委 員 | 簡 所 名 | 職 名 |
|-------------|----------------|------------------------------------|
| 岡本 暁子 | 政治経済学院 | 学院院長補佐 |
| グレン・ストックウェル | 法学学院 | 学院院長補佐 |
| 坂上 桂子 | 文学学院 | 学院院長補佐 |
| 小林 敦子 | 教育・総合科学学院 | 学院院長補佐 |
| 横山 将義 | 商学院 | 学院院長補佐 |
| 後藤 春彦 | 理工学院 | 学院院長補佐 |
| 上沼 正明 | 社会科学総合学院 | 副学院院長 |
| 小島 隆矢 | 人間科学学院 | 学院院長補佐 |
| 間野 義之 | スポーツ科学学院 | 学院院長補佐 |
| 池島 大策 | 国際教養学院 | 学院院長補佐 |
| 加藤 哲夫(座長) | 図書館 | 館長 |
| 宗像 和重 | 図書館 | 副館長 |
| 中島 達夫 | 図書館 | 副館長 |
| 中元 誠(幹事) | 図書館 | 事務部長 |
| 田中 愛治 | 教務部 | 教務部長 |
| 瀧澤 武信 | メディアネットワークセンター | 教務主任 |
| 藤本 浩志 | オープン教育センター | 教務主任 |
| 金子 昌嗣 | 図書館 | 事務副部長 兼利用者支援課長 (～2009.11.30) |
| 多田 智子 | 図書館 | 事務副部長 兼利用者支援課長 (2009.12.1～) |
| 広田 真一 | 国際部 | 副部長 |

学習支援連携委員会作業部会名簿

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 金子 昌嗣(座長) | 事務副部長兼利用者支援課長(～2009.11.30) |
| 多田 智子(座長) | 事務副部長兼利用者支援課長(2009.12.1～) |
| 莊司 雅之 | 事務副部長兼総務課長 |
| 湯川 亜矢 | 情報管理課長 |
| 仁上 園子 | 高田早苗記念研究図書館担当課長 |
| 中村 里弥子 | 戸山図書館担当課長 |
| 小林 邦久 | 理工学図書館担当課長(～2009.11.30) |
| | 理工学図書館担当課長兼所沢図書館担当課長(2009.12.1～) |
| 藤巻 俊樹 | 所沢図書館担当課長(～2009.11.30) |
| 今村 昭一 | 図書館調査役 |
| 鈴木 努 | 利用者支援課 |